

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献 某団体向けATM「通帳レス対応」

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



某団体向けATM「通帳レス対応」

当システムは、ATMへ通帳記帳の代替としてスマートフォン（スマホ）上で取引明細を表示する機能を組み込んだソリューションです。従来、金融機関様の顧客が入出金情報を確認するためには、ATMで紙の通帳に記帳（取引明細を印字）していたため、通帳の発行や通帳プリンタの保守など大きな作業負担がかかっていましたが、当ソリューションはATMの画面に表示されたQRコード（※）をスマホで読み込み、取引明細を表示することが可能なため、これら作業が不要となり業務効率の改善が図れます。同時に、通帳の新規発行が不要となり、紙の使用量の削減につながります。今回、これら導入後の改善効果をCO₂排出量の削減として評価しました。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

当ソリューションが貢献可能なSDGsのゴール



国内金融機関の能力を強化し、全ての人々の銀行取引及び金融サービスへのアクセスを促進・拡大する。



廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。



ICT導入による生産性向上、業務改善等によりお客様におけるCO₂排出量を削減する。

某団体向けATM「通帳レス対応」による業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

ATM「通帳レス対応」は、ATMへ通帳への記帳の代替手段としてスマートフォン（スマホ）上で取引明細を表示する機能を組み込んだソリューションです。従来、金融機関様の顧客が入出金情報を確認するために記帳という形で紙の通帳に取引明細を印字していたため、通帳の発行や通帳プリンタの保守など大きな作業負担がかかっていました。当ソリューションを導入することで、顧客はATMの画面上に表示されたQRコードをスマホで読み込み、取引明細を表示・確認することが可能となります。

これにより、上記作業が不要となり、業務効率の改善が図れます。同時に、通帳の新規発行が不要となり、紙の使用量の削減につながります。今回、これら導入後の改善効果をCO₂排出量の削減として評価しました。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約100% ※富士通フロンテック試算

・通帳発行にかかわる紙使用量の削減と作業時間の削減

【導入前】① 通帳発行総数：A4紙換算900,000枚／年

② 通帳発行作業時間：30,000時間／年

③ プリンタ保守時間：137時間／年（保守作業127時間／年＋リボン交換10時間／年）

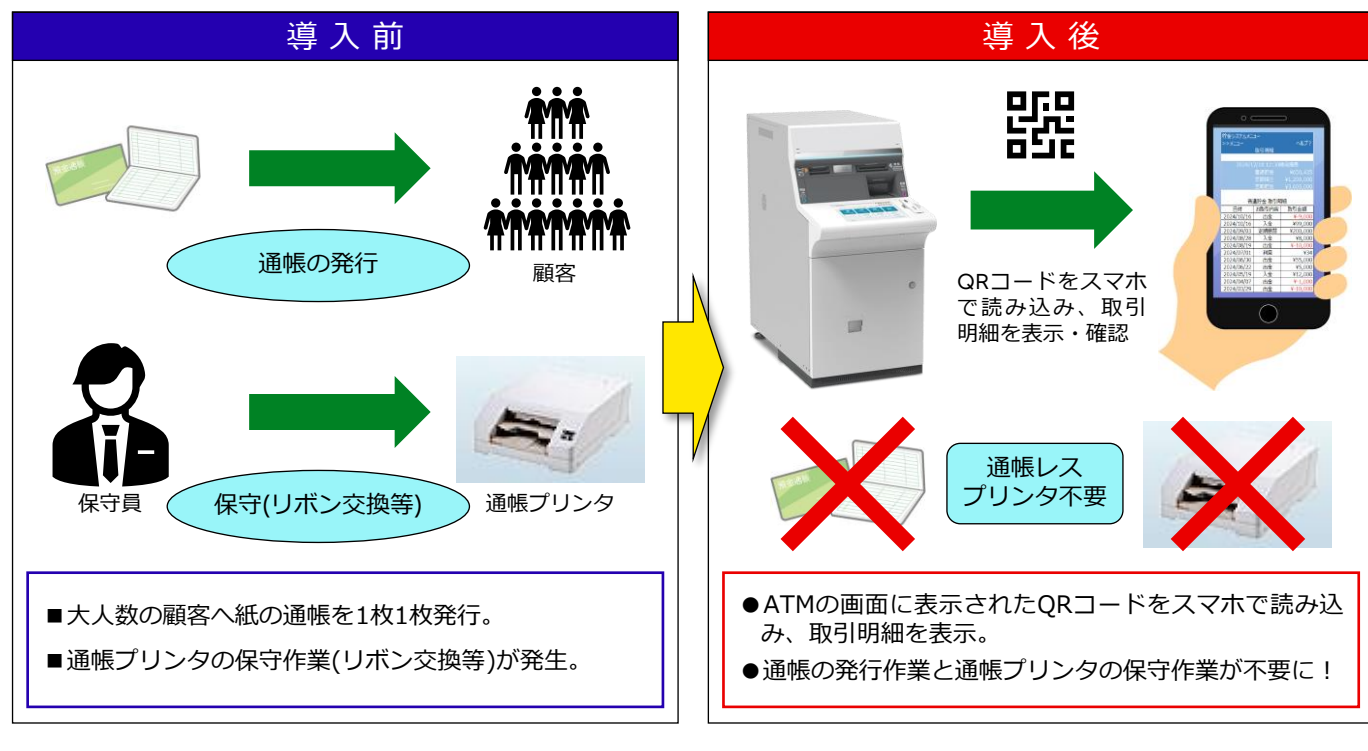
【導入後】スマホによる取引明細表示へ切り替えたことにより、①～③がすべて不要。

➡紙使用量の削減効果：-900,000枚／年、作業時間の削減効果：-30,137時間／年

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おください。

ATM「通帳レス対応」の導入によって、何故、業務効率が改善されるのか？

- ① 通帳そのものが不要となることで、通帳の新規発行作業が不要となります。
- ② 通帳プリンタが不要となることで、プリンタの保守作業が不要となります。



お問い合わせ先

株式会社富士通フロンテックシステムズ

ファイナンス&リテール事業本部 第一ソリューション事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>